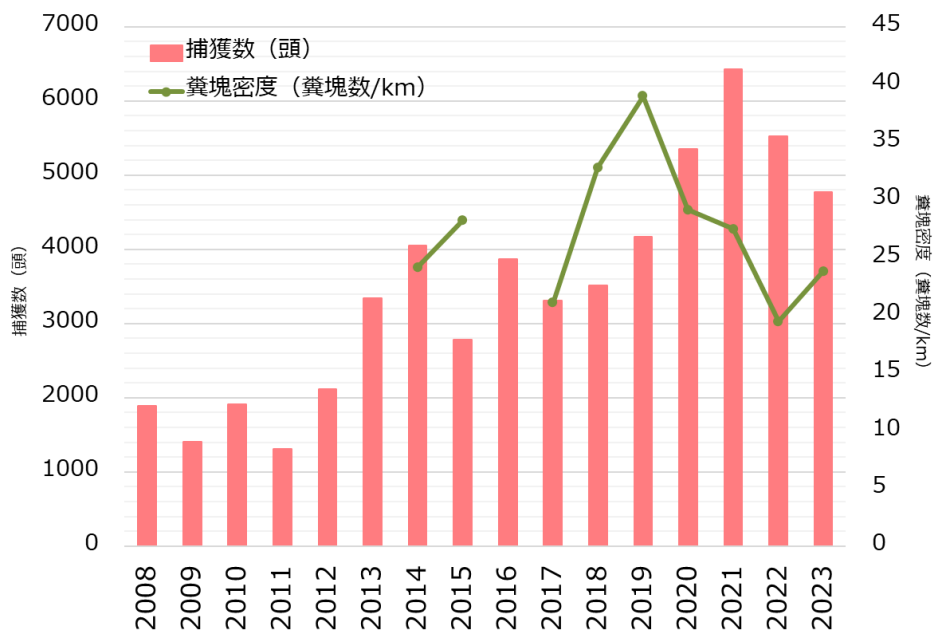


尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針

巻末資料

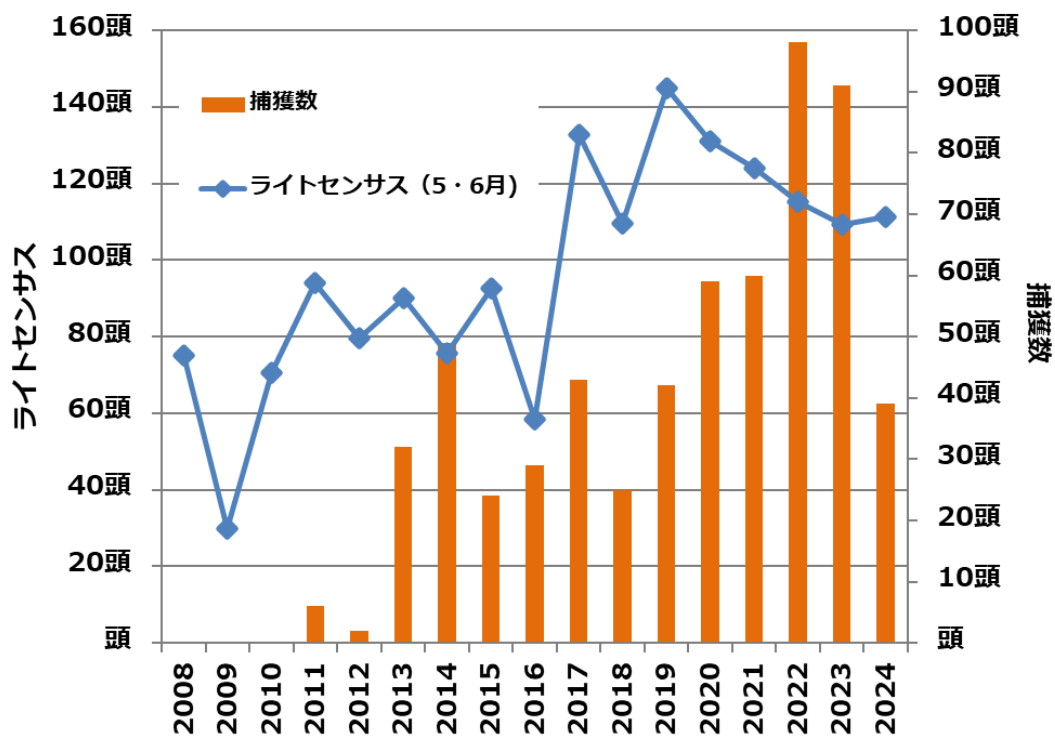
1. 背景（対策方針P 1）



巻末資料図1 第1期対策方針対象区域全体のシカの捕獲数と生息密度指標（糞塊密度）の変遷

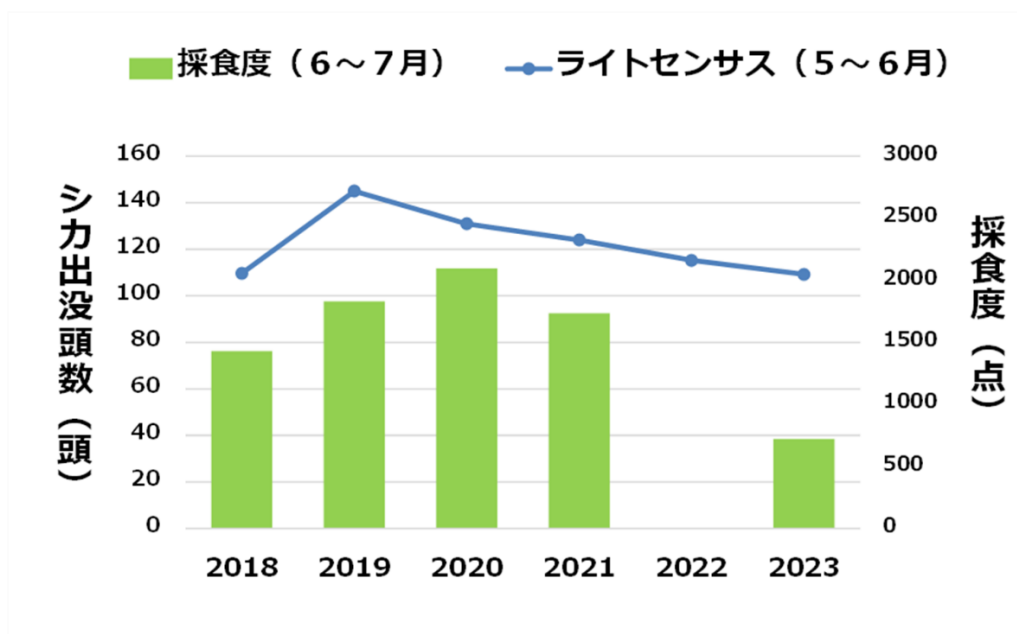
※糞塊密度は群馬県と栃木県の平均

※データ元：群馬県 鳥獣被害対策支援センターおよび栃木県 環境森林部 自然環境課



巻末資料図2 尾瀬ヶ原における捕獲数と密度指標指標（ライトセンサスによる目撃数）の変遷

※データ元：環境省 関東地方環境事務所



巻末資料図3 尾瀬ヶ原のシカの密度指標（ライトセンサスによる目撃数）と植生被害指標（採食度）の変遷

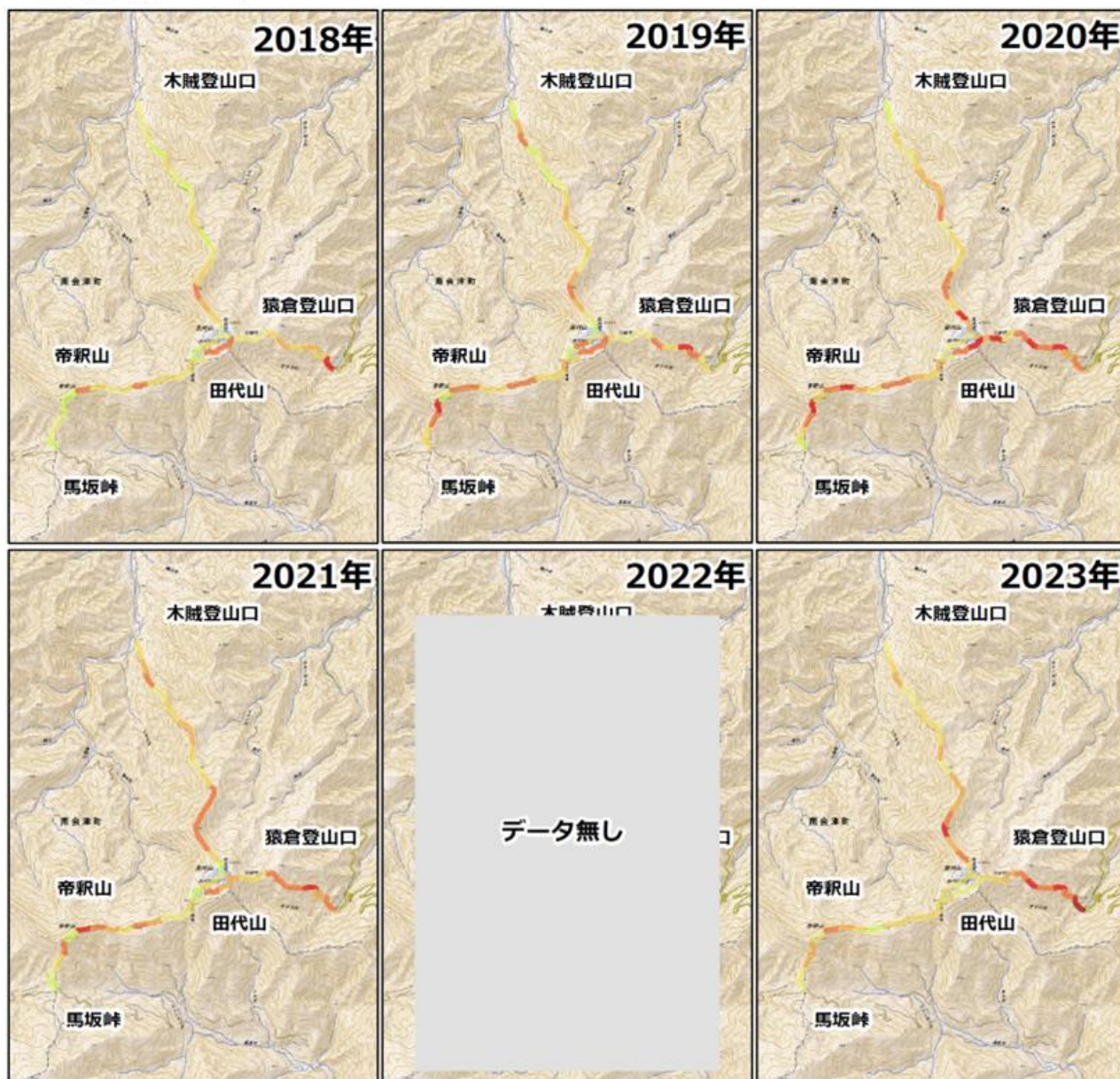
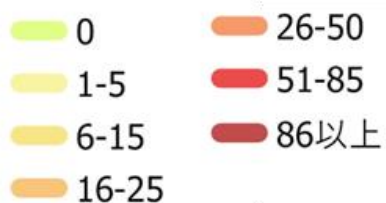
※採食度は採食地点ごとの被害程度を点数化したものの合計点

※データ元：環境省 関東地方環境事務所 国立公園課

巻末資料表 1 令和 6 年度時点の尾瀬における植生保護柵の設置状況

ラ ン ク	実施場所	実施主体	柵の種類	周囲長、面積	開始 年度	植生回 復状況
A	尾瀬ヶ原(ヨッピ川南岸)	関東地方環境事務所 片品村	ネット柵	964m、3.5ha	2018	不明
	尾瀬ヶ原(下ノ大堀)	関東地方環境事務所	ネット柵	890m、5.3ha	2020	不明
	三条ノ滝周辺	関東地方環境事務所	ネット柵	40m×3箇所 70m×1箇所	2019	改善
	大江湿原	会津森林管理署南会 津支署	金属網	2,000m	2014	
		南会津尾瀬二ホンジ カ対策協議会 (事務局：南会津地 方振興局)	金属網	1,550m	2017	
		関東地方環境事務所	ネット柵	160m	2018	不明
	至仏山オヤマ沢田代	群馬県	ネット柵	305m、0.44ha	2020	
B	笠ヶ岳	片品村 関東地方環境事務所	ネット柵	—	—	
	尾瀬ヶ原(研究見本園)	群馬県	ネット柵	1,684m、12.65ha	2020	改善
	尾瀬ヶ原(竜宮)	関東地方環境事務所	ネット柵	1,179m、6.36ha	2021	横ばい
	尾瀬ヶ原(泉水田代)	未設置	—	—	—	
	尾瀬ヶ原(見晴)	関東地方環境事務所	ネット柵	1,676m、9.99ha	2024	未調査
C	燧ヶ岳山頂周辺	関東地方環境事務所 福島県	ネット柵	30m×2	2023	
	大清水湿原	片品村	金属網	644m、0.36a	2018	
	御池田代	檜枝岐村	ネット柵	1,093m	2020	改善

採食度

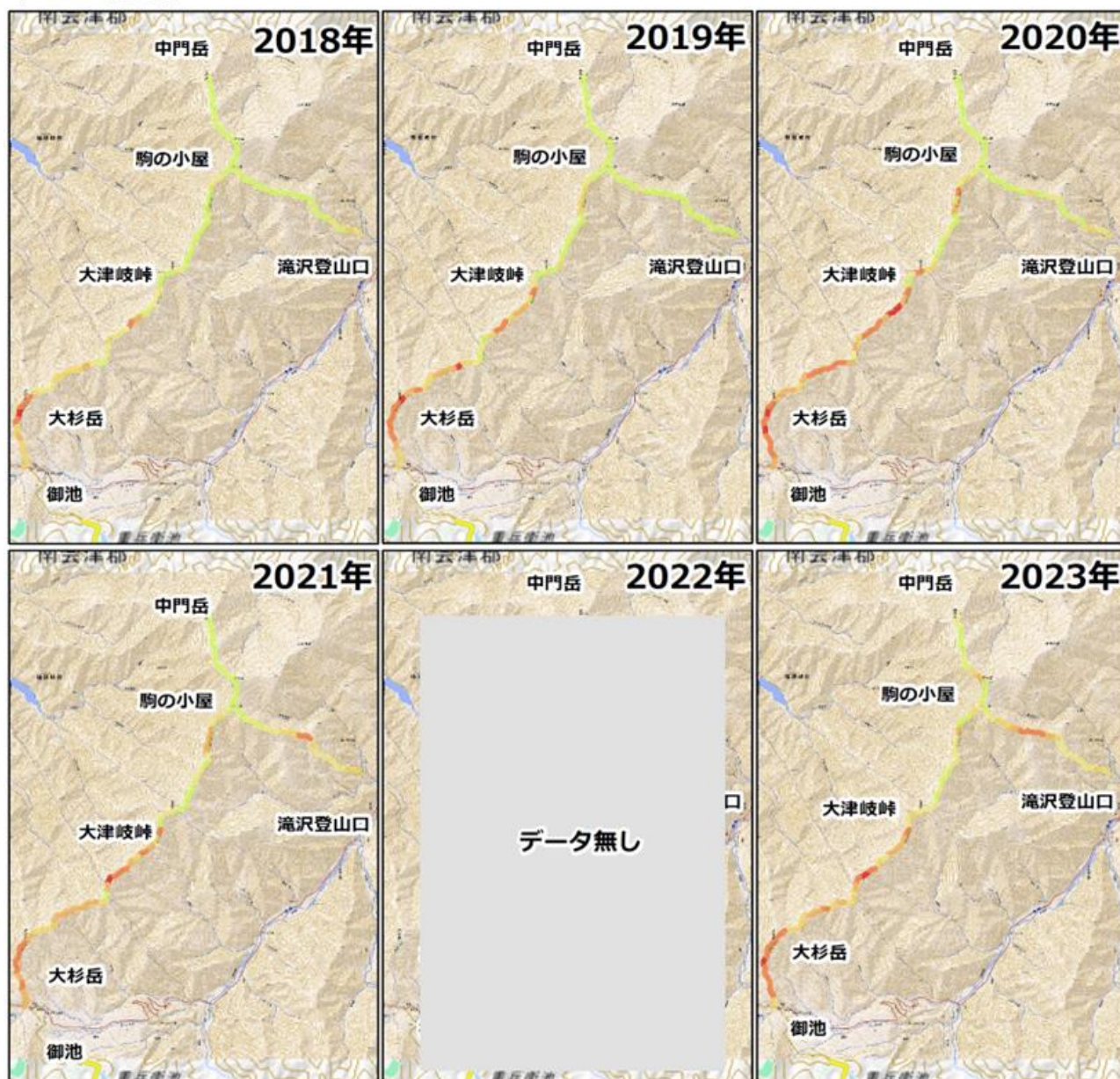
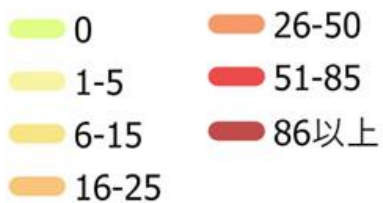


巻末資料図4 田代山・帝釈山周辺の植生被害指標（採食度）の変遷

※採食度は採食地点ごとの被害程度を点数化したものの合計点

※データ元：環境省 関東地方環境事務所 国立公園課

採食度



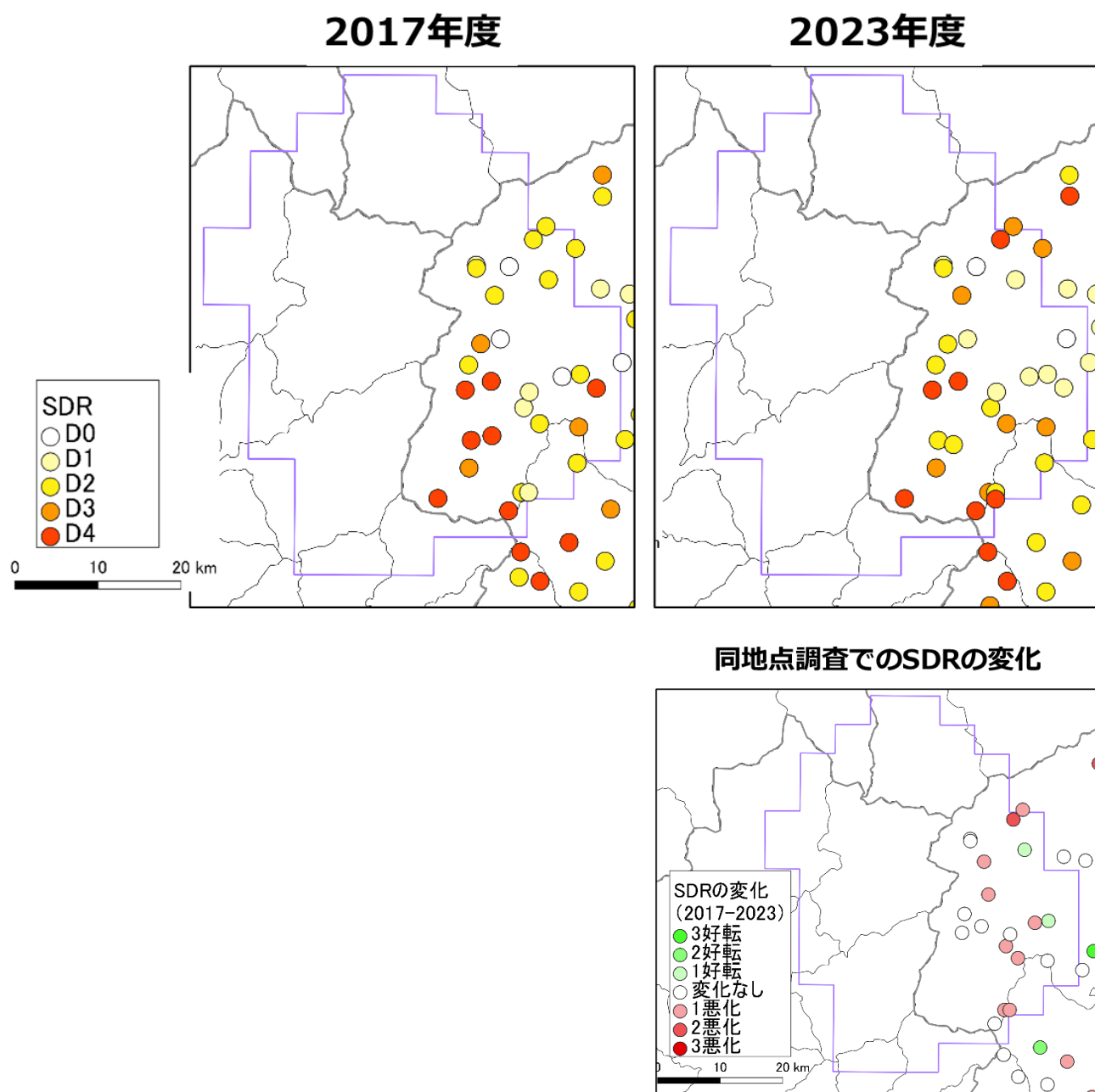
巻末資料図5 会津駒ヶ岳周辺の植生被害指標（採食度）の変遷

※採食度は採食地点ごとの被害程度を点数化したものの合計点

※データ元：環境省 関東地方環境事務所 国立公園課

巻末資料表 2 令和6年度時点の奥日光における植生保護柵の設置状況

実施場所	実施主体	柵の種類	規模 (周囲長、面積)	開始 年度	近年の植生 回復状況
戦場ヶ原	関東地方環境 事務所	ネ ッ ト柵	16,961m、980ha	2001 (H13)	改善
白根山シラネア オイ群生地	栃木県	電 気 柵	905m、1.6ha	1993 (H5)	横ばい
白根山シラネア オイ群生地等	群馬県	電 気 柵	0.4ha	1995 (H7)	横ばい
鬼怒沼緊急避難 的小規模柵	日光地域シカ 対策共同体	ネ ッ ト柵、 電 気 柵	40m 100 m ² 0.01ha 30m 50 m ² 0.005ha 81m 16m 137m 100m	2022 (R4)	横ばい



巻末資料図6 栃木県域における下層植生衰退度（SDR）の変化

※データ元：栃木県 環境森林部 自然環境課

2. 数値目標の具体的な考え方（対策方針P5）

2025 対策方針では、対策実施が植生回復に繋がるプロセスを本誌の図2のように想定し、それぞれの段階に対応する数値目標を本誌の表1、2のように設定している。設定にあたってはバックキャストの考え方を採用し、まずプロセスの最終段階である植生回復について数値目標を設定し、次に、それを達成するための被害低減やシカ生息密度の数値目標を順次設定した。以下では各数値目標を設定する順番に合わせて具体的な方法を記載する。なお、データが十分に得られていない項目の場合、有識者を含めた協議会の合議により暫定値として定めた。

① 尾瀬ヶ原・尾瀬沼の湿原における数値目標

○植生回復（植生調査）

シカの食害がある状況下では値が低下し、食害がなくなると速やかに回復する、植物回復の指標を活用した。尾瀬ヶ原の山ノ鼻研究見本園の植生保護柵内では、食害発生前、植生保護柵がシカに破られた食害状況下、追加の植生保護柵設置による再度の食害のない期間、の調査データがあり、ミツガシワの花数とヤナギトラノオの草丈には上述したような植生回復の指標としての適性が認められた。そこでこれらについて、食害発生前である2017年に計測された値をもとに長期目標とする値を検討した。有識者からの助言を踏まえて、植物の個体差を考慮しても達成されると見込まれる値（ミツガシワの花数35個以上、ヤナギトラノオの草丈50cm以上）を長期目標として採用した（巻末資料図7）。

○被害低減（植生調査）

長期目標は、植生回復の目標設定の際に理想とした植生保護柵の内部と同様に、「被害が稀な状態」と設定した。

短期目標を定めるにあたっては、尾瀬ヶ原・尾瀬沼において植生保護柵の外で得られたデータを活用した。具体的には、各コードラートに生育する指標植物（ニッコウキスゲ・タヌキラン・ハリブキ・ミズバショウ）の被害株数割合と、その周辺の様々な距離半径におけるシカの生息密度（ライトセンサスによる目撃数）との関係を解析した。その結果、被害株数割合は半径700m以内の目撃数と統計的に関係性が高いことが明らかになった。一方で、生データ（観測値）では半径700m以内の目撃数が7.5頭以下のコードラートではほとんど被害が発生していなかった（巻末資料図8）ことから、この閾値の時に上記の統計モデルで予測される被害株数割合（予測値：30%）を植生被害の短期目標とした（巻末資料図9）。

○シカ生息密度（ライトセンサス調査）

長期目標は、植生回復および被害低減の目標設定の際に理想とした植生保護柵の内部と同様に、「目撃が希な状態」と設定した。

短期目標を定めるにあたっては、被害低減の短期目標を設定する際に作成した統計モデルを活用した。コードラートの被害株数割合が過去の観測値で0%、統計モデル上の予測値で30%以下となるためには、ライトセンサス調査の目撃数（半径700m以内の合計）が7.5頭以下となる必要がある。この値を単位面積（1km²）当たりに換算し、11.1頭/km²を短期目標とした。

② 栃木県内の森林（落葉広葉樹林）

○植生回復（SDR調査）

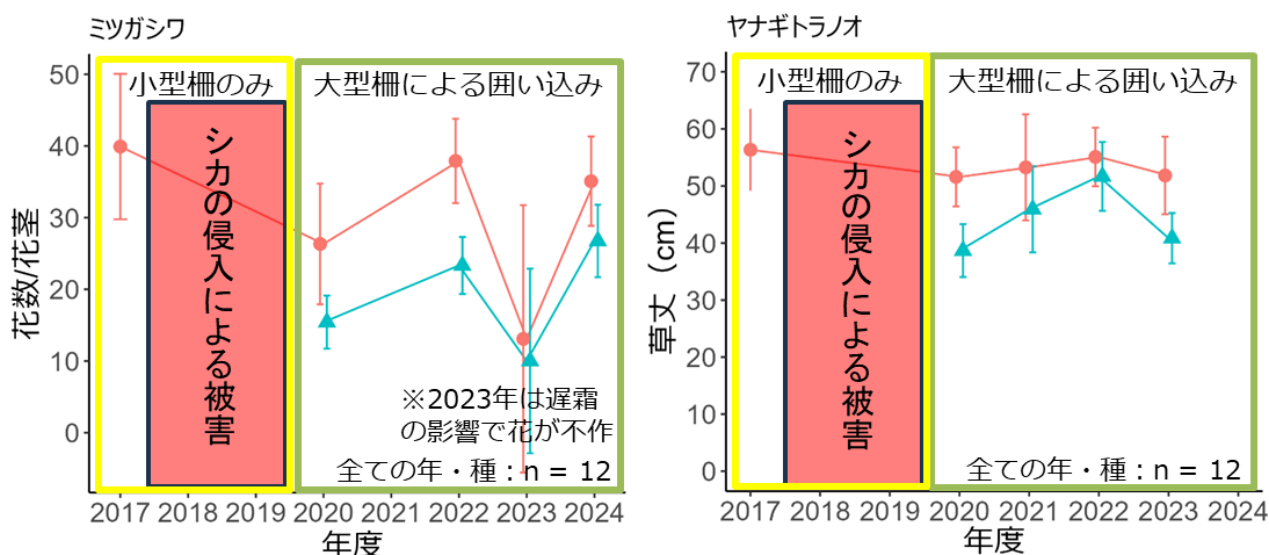
森林植生の健全性を表す指標としては様々なものがあるが、目的で示されたような維持・更新がなされるためには次世代を担う高木の稚幼樹が生育している必要がある。これまで栃木県の森林では高木性稚幼樹の有無の情報が広域的に記録されてきたため、これを森林の健全性を表す指標とした。現状の限られた情報の中では、どの程度の林分で高木性稚幼樹が確認される状況を目指すかは合議により決定する必要があるため、2025 本対策方針では、75%以上の林分で高木性稚幼樹がある状態を長期目標とした。

○植生被害（SDR調査）

75%以上の林分で高木性稚幼樹がある状態にするためには、下層植生衰退度（SDR）の衰退度ランクが D1 以下の林分を増やす必要がある（巻末資料図 10）。シカ生息密度との関係解析の結果、シカの生息密度を 1.0 頭/人日以下にすると衰退度ランクが D1 以下の林分が全体の 85%以上になることが確認されたため（巻末資料図 11）、これを長期目標とした。

○シカ生息密度（出猟カレンダーを用いた調査）

植生被害の長期目標を達成するため、目撃効率（SPUE）が 1.0 頭/人日以下を森林のシカ生息密度の長期目標とした。なお、短期目標は、現在の栃木県のシカ生息密度が 2.4 頭/人日であることから、実現可能性を考慮し 1.5 頭/人日以下と設定した。

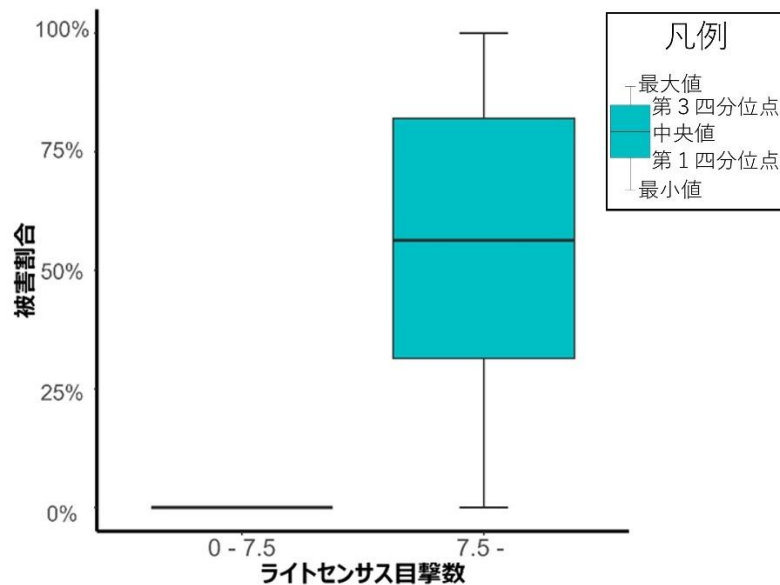


巻末資料図 7 尾瀬ヶ原山ノ鼻研究見本園におけるシカの被害に対する指標植物の反応の変遷

※赤線は 2017 年の時点で小型柵の中に位置し、2020 年から大型柵によって二重に囲い込まれた調査地。

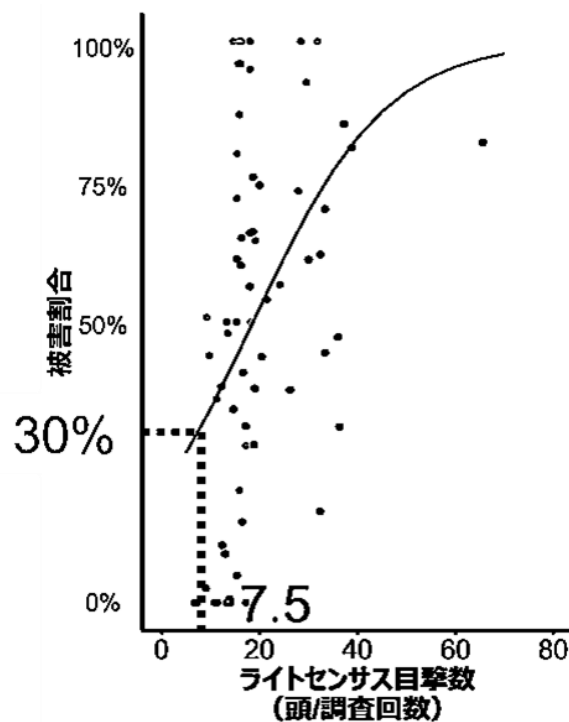
※青線は小型柵の外に位置していたが、2020 年から大型柵によって新たに囲い込まれた調査地であり、2019 年以前のデータはない。

※データ元：群馬県 尾瀬保護専門委員（大森主幹からご提供）



巻末資料図8 尾瀬ヶ原・尾瀬沼における湿原のコドラートごとの被害割合と、その周囲半径700m 以内でライトセンサス時に目撃されたシカの頭数の関係（調査は2018～2023 年度に実施）

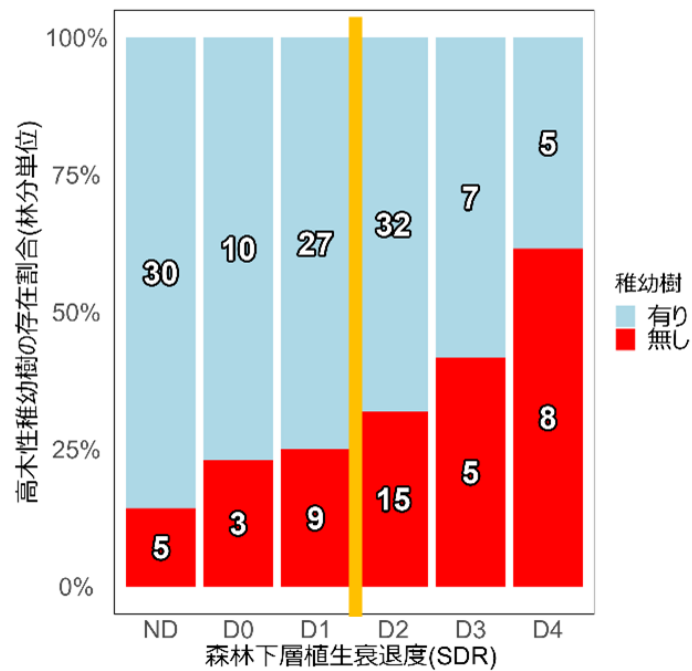
※データ元：環境省 関東地方環境事務所 国立公園課



巻末資料図9 尾瀬ヶ原・尾瀬沼における湿原のコドラートごとの被害割合と、その周囲半径700m 以内でライトセンサス時に目撃されたシカの頭数の関係解析結果（調査は2018～2023 年度に実施）

図中の曲線はライトセンサス目撃数から統計的に予測される被害割合を表す。

※データ元：環境省 関東地方環境事務所 国立公園課



巻末資料図 10 高木性稚幼樹の存在割合と森林下層植生衰退度（SDR）の関係（調査は 2017 年度に実施）

無被害（ND）：シカの食痕が全く確認されなかった林分

衰退度 0（D0）：シカの食痕がある林分のうち、低木層の植被率が 75.5%以上の林分

衰退度 1（D1）：低木層の植被率 75.5%未満 38%以上のシカ食痕あり林分

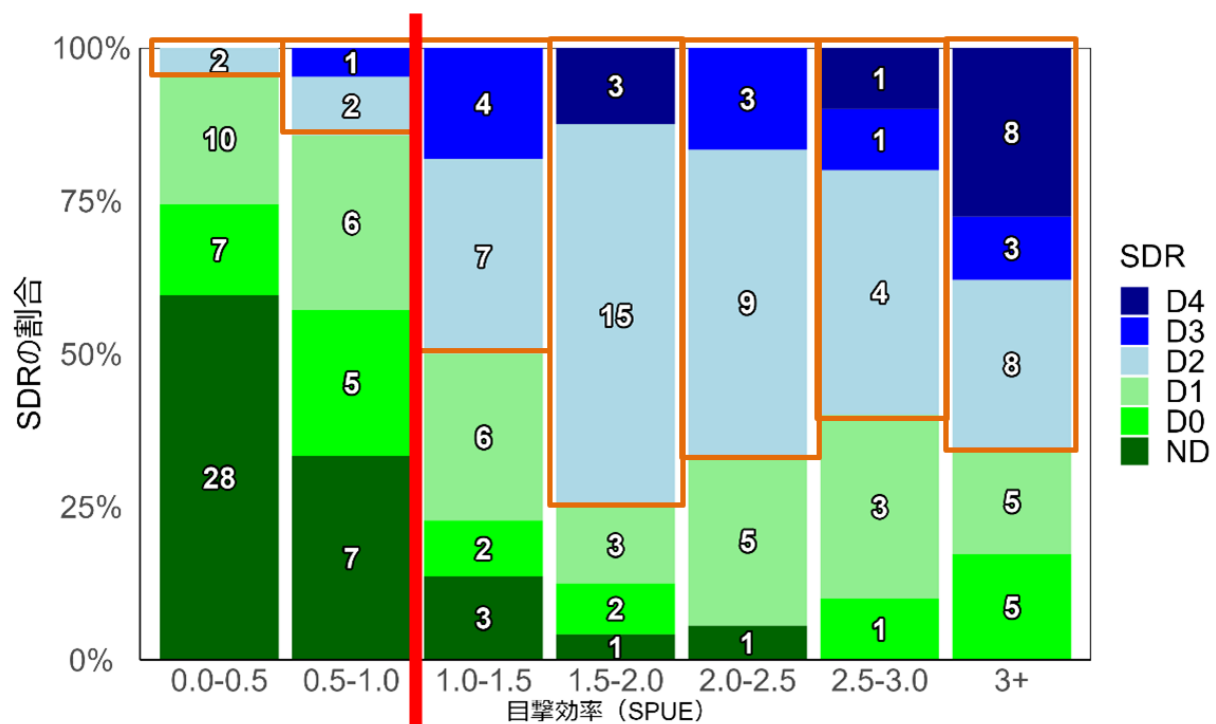
衰退度 2（D2）：低木層の植被率 38%未満 18%以上のシカ食痕あり林分

衰退度 3（D3）：低木層の植被率 18%未満 9%以上のシカ食痕あり林分

衰退度 4（D4）：低木層の植被率 9%未満のシカ食痕あり林分

※高木性稚幼樹の有無はササの被度の影響も受けるため、ササの被度が 80%以下の地点のみ集計

※データ元：栃木県 環境森林部 自然環境課



巻末資料図 11 シカの密度指標（目撃効率（SPUE））に応じた下層植生衰退度（SDR）の構成割合

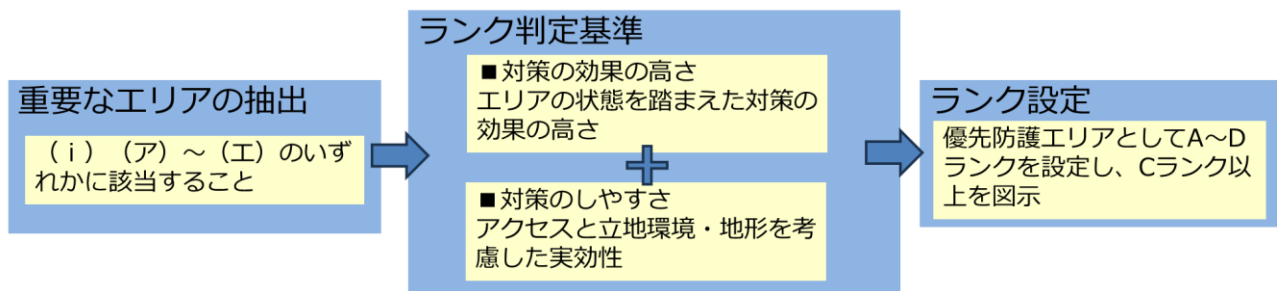
※データ元：栃木県 環境森林部 自然環境課

※橙色の囲いは下層植生衰退度が D2 以上の林分を表す。

3. 優先防護エリアの再評価の考え方（対策方針P 7）

① 優先防護エリアの設定

優先防護エリアの設定に当たり、重要なエリアの抽出方法と対策の優先度を示すランク（以下、「ランク」という。）の判定基準の見直しを行なった。抽出するエリアは(i)(ア)～(エ)のいずれかに該当する風致・景観の維持上又は生物多様性の保全上重要なエリアとする。抽出したエリアについては、対策の効果の高さと植生保護柵の設置を前提とした対策のしやすさを考慮し、A～Dの4段階でランクを設定した（巻末資料図12、本誌表3）。



巻末資料図12 優先防護エリア設定の流れ

(i) 重要なエリアの抽出

(ア) 国立公園の風致・景観を象徴する特徴的な種を有するエリア

季節的な変化を見せる植物群落の構成種で特徴的な種

(a) ミズバショウ

(b) ニッコウキスゲ

(c) その他 紅葉が美しい低木群落、キンコウカ群落、イワイチョウなどのお花畑

(イ) 絶滅危惧種等を有するエリア

(a) 環境省レッドリストの絶滅危惧種

環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類（CR、EN）及びⅡ類（VU）に掲載されている種が分布するエリア

(b) 県レッドリストの絶滅危惧種

県レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類（CR、EN）に掲載されている種が分布するエリア

(c) 地域的に特に個体数が少ない種

Ⅱ類以下又は未指定の種において、有識者の意見に基づき尾瀬及び日光国立公園で個体数が少ないと判断される種が分布するエリア

(ウ) 特殊な条件の立地に生育する種を有するエリア

- (a) 高層湿原、中間湿原、低層湿原
- (b) 雪田
- (c) 特殊岩石地（かんらん岩地・蛇紋岩岩地等）

(エ) 分布の特殊性を有する種の生育エリア

- (a) 分布の範囲が国立公園及びその周辺に限定されている種
- (b) 国立公園が国内における分布の東西南北の限界（もしくはそれに近い地域）となっている種
- (c) 隔離分布

(ii) ランク判定基準の見直し

優先防護エリアにおけるランクは以下(ア)～(ウ)の手順で判定の上、設定する。

【対策の効果の高さ】

(ア) 対策の効果の高さ（高～低に分類）

エリアの状態を踏まえた対策の効果の高さは巻末資料表 3 のとおりとし、暫定ランク付けする。

巻末資料表 3 対策の効果の高さにおけるランク対応

対策の効果の高さ	内容	ランク（暫定）
高	・（i）で抽出した重要なエリアがシカの被害をさらに受けると植生回復にかかる時間が長期化する又は回復不可能となる状態であり、至急対策を行うことで対策の効果を大いに得る事が可能となる。	A
中	・（i）で抽出した重要なエリアがシカの被害をさらに受けると植生回復に時間を要する状態であり、「i」に次いで対策を行うことで対策の効果をj得る事が可能となる。	B
低	・（i）で抽出した重要なエリアがすでにシカの被害を受け植生回復に長期間かかる状態又は長期間シカの被害を受けづらい状態※にあり、どのタイミングで対策を行なっても得られる対策の効果は変わらない。	C

※シカの嗜好性が低い植物を有するエリア等

【対策のしやすさ】

(イ) アクセス（難～易に分類）

車両の駐車位置または山小屋を基点としたアクセスの難易度は巻末資料表 4 のとおりとし、(ア)

で設定した暫定ランクを変更する。

巻末資料表 4 アクセス難易度におけるランク対応

難易度	内容	ランク（暫定）	例
難	・到達方法は歩行のみで登山道がない区間があり、到達まで2時間以上要する。	D	外田代
高	・到達方法は歩行のみで登山道がない区間があり、2時間程度で到達可能。 ・到達方法は歩行のみで登山道があり、到達まで2時間以上要する。	・A→B ・B以下は巻末資料表3のまま	燧ヶ岳 笠ヶ岳 泉水田代 など
中	・到達方法は歩行のみで1～2時間程度で到達可能。	・巻末資料表3のまま	三条の滝など
やや易	・到達方法は歩行のみで30分～1時間程度で到達可能。		尾瀬ヶ原 大江湿原 など
易	・車両で到達可能。 ・30分以内の歩行で到達可能。		御池田代 大清水湿原など

（ウ）立地環境・地形（難～易に分類）

立地環境・地形を元にした難易度（主に植生保護柵の設置を前提）は巻末資料表5のとおりとし、最終的なランク付けをする。

巻末資料表 5 立地環境・地形に伴う難易度におけるランク対応

難易度	内容	ランク
難	・露岩地、崖地、急傾斜地（40度以上）などで実質対策が極めて困難である。	D
高	・礫地など土壌が浅い立地。 ・30度前後の急斜面。 ・人通り、河川など、回避のための技術的な問題が複数ある。	・A→B ・B以下は巻末資料表4のまま
中	・水辺、20度前後の斜面、凹凸がある複合地形など。 ・人通り、河川など、回避のための技術的な問題が複数ある。	・巻末資料表4のまま
やや易	・10度前後の斜面、凹凸がある複合地形など。	
易	・平坦地。 ・特定の種を保存するため規模が小さい。	

以上の手順により、各優先防護エリアのランクを巻末資料表 6 に整理し、優先防護エリアとして本誌図 3－1、2 に示した。

巻末資料表 6－1　優先防護エリアとランク

重要なエリア		抽出基準												ランク判定基準			ランク (2020ラン ク→2025ラ ンク)	想定される 植生保護柵の 規模 ※1	主な保全の対象 環境省レッドリストにおけるⅡ類以上を太字 都道府県レッドリストにおけるⅠ類以上を太字 ※2	
		(ア)			(イ)			(ウ)			(エ)			緊急性 (2020→ 2025)	対策のしやすさ					
		ミズバショウ	ニッコウキスゲ	その他	環R D B	県R L	他	湿原	雪田	特殊岩	限定	限界	隔離		アクセス					
		(a)	(b)	(C)	(a) Ⅱ類 以上	(b) Ⅰ類 以上	(C)	(a)	(b)	(c)	(a)	(b)	(c)		アクセス	立地環境・地形				
尾瀬ヶ原エリア	尾瀬ヶ原（見晴）	●		●	●		●	●						中→中	易	易～中	B→B	1676m	(ア)ミズバショウ群落、ミツガシワ群落。(イ)ヒメミズトンボ（環:VU、福:VU）、オオニガナ（福:NT）などの生育地。(ウ)低層湿原。	
	沼尻川抛水林				●	●	●				●		●	低→低	やや易	中	D→C	個～大	(イ)シバタカエデ（環:EN・福:EN・群:EN）、ペコバナヤマシャクヤク（環:VU・福:CR・群:CR）、オゼキンボウゲ（群:VU）、キバナノアマナ（群:CR）などの生育地。(I)オゼキンボウゲ（限定）、シバタカエデ（隔離）。	
	尾瀬ヶ原（竜宮）	●		●		●	●	●						中→中	易	易～中	B→B	1179m	(ア)ミズバショウ群落、ミツガシワ群落。(イ)オオニガナ（群:EN）、ヤナギトラノオ（群:指定無し）などの生育地。(ウ)低層湿原。	
	尾瀬ヶ原（下ノ大堀）	●	●	●		●		●						高→高	易	易～中	A→A	890m	(ア)ミズバショウ群落、ニッコウキスゲ群落、低木群落。 (イ)オオニガナ（群:EN）などの生育地。(ウ)低層湿原。	
	尾瀬ヶ原（ヨツピ川南岸）		●			●	●	●						高→高	やや易	易	A→A	964m	(ア)ニッコウキスゲ群落。(イ)カキラン（群:CR）、ヤナギトラノオ（群:指定無し）などの生育地。(ウ)中間湿原。	
	東電尾瀬橋付近	●					●	●						低→低	易	易～やや易	－→C	小～大	(ア)ミズバショウ群落、(イ)クロバナロウゲ（新:指定無し）、ミズチドリ（新:VU）、ザゼンソウ（新:VU）などの生育地。(ウ)低層湿原。（エリアの追加により評価）	
	景観山山麓扇状地				●	●	●				●		●	中→低	中	中～高	C→C	小～大	(イ)シバタカエデ（環:EN・群:EN）、オゼキンボウゲ（群:VU）、センジュガンビ（群:指定無し）などの生育地。(I)オゼキンボウゲ（限定）、シバタカエデ（隔離）。	
	尾瀬ヶ原（泉水田代）						●	●						高→低	高	中	B→C	小～大	(イ)クロバナロウゲ（群:指定無し）の生育地。(ウ)低層湿原。	
	尾瀬ヶ原（研究見本園）	●		●	●	●	●	●				●	●	中→中	易	易～中	B→B	1684m	(ア)ミズバショウ群落、ミツガシワ群落。(イ)ヒメミズトンボ（環VU、群EN）、オオニガナ（群EN）、ヤナギトラノオ（群:指定無し）、クロバナロウゲ（群:指定無し）などの生育地。(ウ)高層湿原、中間湿原、低層湿原。(I)ヒメミズトンボ（限界、隔離）。	
	尾瀬ヶ原（背中アブリ田代）							●						中→中	難	易～中	－→D	-	(ウ)高層湿原、中間湿原、低層湿原。	
	尾瀬ヶ原（下田代）		●					●						－→低	易	易～中	－→C	小～大	(ア)ニッコウキスゲ群落。(ウ)高層湿原、中間湿原。（エリアの追加により評価）	
	山ノ鼻周辺					●	●					●		低→低	易	中	D→C	個～大	(イ)コケイラン（群:EN）、オオバコウモリ（群:指定無し）、カラフトダイコンソウ（群:指定無し）、ヒメゴヨウイチゴ（群:指定無し）などの生育地。(I)オオバコウモリ（限界）。	
	デンマ沢	●			●							●		低→低	易	中	D→C	小～大	(ア)ミズバショウ群落。(イ)オゼヌマアザミ（環:VU、群NT）などの生育地。(I)オゼヌマアザミ（限界）。	
	横田代			●				●						低→中	中	やや易	D→B	大	(ア)キンコウカ群落。(ウ)高層湿原、中間湿原。	
	アヤマ平			●		●	●	●					●	低→中	やや易	やや易	D→B	大	(ア)キンコウカ群落。(イ)クロミノウグイスカグラ（群:CR）、コガネイチゴ（群:指定無し）、マルバウスゴ（群:指定無し）の生育地。(ウ)高層湿原、中間湿原。(I)クロミノウグイスカグラ（隔離）。	
	富士見田代							●						低→低	易	易	D→C	小～大	(ウ)高層湿原、中間湿原。	
	竜宮小屋裏山				●	●								低→低	易	高	D→C	個	(イ)トラキチラン（環:EN・群:CR）の生育地。	
	イヨドマリ沢						●					●		中→低	中	高	C→C	小	(イ)ジョウシュウトリカブト（福:VU）の生育地。(I)ジョウシュウトリカブト（限界）。	
	燧ヶ岳の西山麓 大楢沢のフキユキノシタ 群落・ジョウシュウトリカブト生育地						●						●	中→低	中	高	C→C	個～小	(イ)ジョウシュウトリカブト（福:VU）、フキユキノシタ（福:VU）などの生育地。(I)ジョウシュウトリカブト（限界）。	
	ウサギ田代			●				●						中→低	中	中	D→C	小～大	(ア)低木群落。(ウ)中間湿原。	
	景観山谷中雪崩斜面					●	●						●	低→低	高	高	D→C	個～小	(イ)トガクシソウ（環:NT、群:CR）、シラネアオイ（群:VU）生育地。(I)トガクシソウ（隔離）。	
	外田代				●			●				●	●	低→低	難	易～中	D→D	－	(イ)ナガバノモウセンゴケ（環:VU、群:VU）、チシマウスバスミレ（環:VU、群:VU)などの生育地。(ウ)高層湿原、中間湿原。(I)ナガバノモウセンゴケ（限界、隔離）。	
	柳平							●						低→低	高	易～中	D→C	小～大	(ウ)高層湿原、中間湿原、低層湿原。	
	鳩待～山ノ鼻間 カラフトミヤマシダ生育地					●								低→低	やや易	易	D→C	個	(イ)カラフトミヤマシダ（群:CR）の生育地。	
	鳩待～山ノ鼻間 シラネアオイ群落						●							中→中	やや易	易	－→B	14m	(イ)シラネアオイ（群:VU）の生育地。（エリアの追加により評価）	
	川上川上流					●								低→低	やや易	易	D→C	個～小	(イ)オオタカネバラ（群:CR）の生育地。	
	尾瀬ヶ原周辺					●								低→低	中	易～中	D→C	個	(イ)シテンクモキリ（群:CR）の生育地。	
	長沢						●							低→低	やや易	易～中	D→C	個～小	(イ)ヒメゴヨウイチゴ（群:指定無し）の生育地。	

※1　個→個体規模：個体を対象とし周長20m以内（鳩待～山ノ鼻間のシラネアオイなど）　小→小規模：群落を対象とし周長20m以上100m以内（燧ヶ岳など）　大→大規模：景観を対象とし周長100m以上（下ノ大堀、大江湿原など）、既設の柵については2025（令和7）年3月現在の周長

※2　環→環境省レッドリスト2020　群→環境省レッドリスト2022　福→福島県レッドリスト2022　新→新潟県レッドリスト2014　CR: 絶滅危惧ⅠA類, EN: 絶滅危惧ⅠB類, VU: 絶滅危惧Ⅱ類, NT: 準絶滅危惧　栃→栃木県レッドリスト　Ⅰ類: Aランク（環境省CR+EN相当）　Ⅱ類: Bランク（環境省VU相当）　国希→国内希少野生動植物種

巻末資料表 6-2 優先防護エリアとランク

重要なエリア		抽出基準											ランク判定基準			ランク (2020ラン ク→2025ラ ンク)	想定される 植生保護柵の 規模 ※1	主な保全の対象 環境省レッドリストにおけるⅡ類以上を太字 都道府県レッドリストにおけるⅠ類以上を太字 ※2	
		(ア)			(イ)			(ウ)			(エ)			(ア)	(イ)				(ウ)
		ミズバショウ	ニッコウキスゲ	その他	環R D B	県R L	他	湿原	雪田	特殊岩	限定	限界	隔離	緊急性 (2020→ 2025)	対策のしやすさ				
		(a)	(b)	(C)	(a) Ⅱ類 以上	(b) Ⅰ類 以上	(C)	(a)	(b)	(c)	(a)	(b)	(c)		アクセス				立地環境・地形
尾瀬沼エリア	大江湿原	●	●	●	●	●	●	●			●		高→高	やや易	易～中	A → A	3710m	(7)ニッコウキスゲ群落。(4)クロバナロウゲ（福:EN）、シナノキンバイ（福:VU）、ヤナギトラノオ（福:NT）、オゼヌマアザミ（環VU・福VU）などの生育地。(7)低層湿原。(1)オゼヌマアザミ（限界）	
	沼山峠						●				●		低→低	やや易	易	D → C	個	(4)ジョウシュウオニアザミ（福:NT）の生息地。(1)ジョウシュウオニアザミ（限界）。	
	小淵沢田代				●	●		●					低→低	中	易	D → C	大	(4)ヤチラン（環:EN、福:EN、群:CR）などの生育地。(7)高層湿原、中間湿原。	
	施設周辺					●							低→低	易	易	D → C	個～小	(4)カラフトダイコンソウ（福:EN）、エゾムラサキ（福:CR）などの生育地。	
	三平下・早稲沢付近の湿原	●			●	●	●				●		低→低	易	易～中	D → C	小～大	(7)ミズバショウ群落。(4)オゼヌマアザミ（環:VU・群:NT）、オオバコウモリ（群:指定無し）などの生育地。(1)オゼヌマアザミ（限界）、オオバコウモリ（限界）。	
	三平峠付近						●						低→高	易	易	D → A	個	(4)キヌガサソウ（群:指定無し）の生育地。（発見により評価）	
	沼尻平				●	●		●					低→低	中	易～中	D → C	小～大	(4)キリガミネアサヒラン（環:EN、群:CR、福:CR）、ハラユヌヒゲ（環:EN、群:VU、福:EN）などの生育地。(7)高層湿原、中間湿原、低層湿原。	
	小沼湿原				●			●			●	●	低→低	中	易～中	D → C	小～大	(4)ナガバノモウセンゴケ（環:VU、群:VU、福:VU）の生育地。(7)高層湿原、中間湿原。(1)ナガバノモウセンゴケ（限界、隔離）。	
	曲り田代				●			●			●	●	低→低	高	易～中	D → C	小～大	(4)ナガバノモウセンゴケ（環:VU、群:VU、福:VU）の生育地。(7)高層湿原、中間湿原。(1)ナガバノモウセンゴケ（限界、隔離）。	
	白砂田代				●			●			●	●	低→低	中	易～中	D → C	小～大	(4)ナガバノモウセンゴケ（環:VU、群:VU、福:VU）の生育地。(7)高層湿原、中間湿原。(1)ナガバノモウセンゴケ（限界、隔離）。	
大清水平				●			●			●	●	低→低	中	易	D → C	小～大	(4)ナガバノモウセンゴケ（環:VU、群:VU、福:VU）の生育地。(7)高層湿原、中間湿原。(1)ナガバノモウセンゴケ（限界、隔離）。		
タソガレ田代							●					低→低	高	易～中	D → C	小～大	(7)高層湿原、中間湿原。		
燧ヶ岳エリア	燧ヶ岳山頂周辺			●		●	●				●	●	高→高	高	高	B → B	30m、30m	(7)高山植生のお花畑、その他ユキザサ群落。(4)コマクサ（福:CR）、ジョウシュウオニアザミ（福:NT）、トウヤクリンドウ（福:VU）、アラシグサ（福:VU）、キヌガサソウ（福:指定無し）などの生育地。(1)ジョウシュウオニアザミ（限界）、コマクサ（隔離）。	
	熊沢田代			●				●					低→中	中	易～中	D → B	小～大	(7)キンコウカ群落。(7)高層湿原、中間湿原。	
	広沢田代			●				●					低→中	中	易～中	D → B	小～大	(7)キンコウカ群落。(7)高層湿原、中間湿原。	
	御池田代	●				●	●	●			●		中→低	易	易～中	C → C	1,093m	(7)ミズバショウ群落。(4)クロバナロウゲ（福:EN）、オオバコウモリ（福:指定無し）生育地。(7)低層湿原。(1)オオバコウモリ（限界）。	
	スモウトリ田代周辺	●				●	●	●			●		中→低	易	易～中	C → C	小～大	(7)ミズバショウ群落。(4)クロバナロウゲ（福:EN）、オオバコウモリ（福:指定無し）生育地。(7)低層湿原。(1)オオバコウモリ（限界）。	
	上田代、横田代、西田代			●				●					低→中	中	易～中	D → B	小～大	(7)キンコウカ群落。(7)高層湿原・中間湿原。	
	広沢～熊沢田代間						●						中→中	中	易	→ → C	個	(4)キヌガサソウ（福:指定無し）生育地。（発見により評価）	
至仏山・笠ヶ岳 エリア	至仏山周辺			●	●	●			●	●		●	●	中→中	高	高	A → B	大	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)キンロバイ（環:VU、群:EN）、カトウハコベ（環:VU、群:VU）、オゼソウ（環:VU、群:VU）などの生育地。(7)雪田、蛇紋岩岩地。(1)カトウハコベ（限界、隔離）、オゼソウ（隔離）。
	オヤマ沢田代			●					●				高→高	高	易～中	A → B	305m	(7)イワイチョウなどのお花畑。(7)雪田。	
	原見岩			●			●	●			●		高→低	高	高	A → C	個～小	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)シラネアオイ（群:VU）の生育地。(7)雪田。（オヤマ沢田代を細分化し評価）	
	小至仏東斜面（お花畑）			●	●		●		●	●		●	●	中→高	高	中～高	A → B	大	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)オゼソウ（環:VU、群:VU）、ホソバヒナウスユキソウ（環:VU、群:NT）、エソウサギギク（群:指定無し）などの生育地。(7)雪田、蛇紋岩岩地。(1)ホソバヒナウスユキソウ（限界）、オゼソウ（隔離）。（至仏山周辺を細分化し評価）
	笠ヶ岳山頂付近			●	●	●			●	●		●	●	高→高	高	中～高	A → B	383m	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)キンロバイ（環:VU・群:EN）、カトウハコベ（環:VU・群:VU）、カンチコウソリナ（群:CR）、ミヤマムラサキ（群:EN）、クロミノウグイスカグラ（群:CR）などの生育地。(7)雪田、蛇紋岩岩地。(1)カトウハコベ（限界、隔離）、カンチコウソリナ（隔離）、ミヤマムラサキ（隔離）、クロミノウグイスカグラ（隔離）。
	小笠（お花畑）			●			●		●	●			高→高	高	中～高	A → B	小	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)トキシソウ（環:NT、群:VU）などの生育地。(7)雪田、蛇紋岩岩地。（笠ヶ岳山頂付近を細分化し評価）	
	片藤沼周辺							●					低→低	高	易～中	D → C	大	(7)高層湿原、中間湿原。	
	至仏山登山道沿い						●						高→高	中	易	→ → A	個	(4)シラネアオイ（群:VU）の生育地。（発見により評価）	
会津駒ヶ岳 エリア	会津駒ヶ岳山頂周辺			●			●		●				中→高	高	易～中	C → B	小～大	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)ハクサンコザクラ（福:NT）などの生育地。(7)雪田。	
	大津岐峠周辺の稜線 雪崩斜面谷頭部及び雪田草原			●		●			●				中→低	高	易～中	C → C	個～小	(7)イワイチョウなどのお花畑。(4)シラネアオイ（福:EN）などの生育地。(7)雪田。	
田代山・帝釈山 エリア	田代山山頂の湿原群落		●	●			●						中→中	高	易～中	C → B	大	(7)ニッコウキスゲ群落、キンコウカ群落。(7)高層湿原、中間湿原。	
	帝釈山山麓のオサバグサ 群落			●				●					中→中	易	やや易～中	C → B	小～大	(7)オサバグサ群落。(4)オサバグサ（福:VU）の生育地。	
	小田代～田代山区間						●				●		低→低	中	易	D → C	個	(4)ジョウシュウオニアザミ（福:NT）の生育地。(1)ジョウシュウオニアザミ（限界）。	
	猿倉登山口周辺						●				●		中→中	易	中～高	C → C	個～小	(4)オオバコウモリ（福:指定無し）、センジュガンビ（福:指定無し）などの生育地。(1)オオバコウモリ（限界。）	
その他 エリア	大清水湿原	●	●										中→低	易	中	C → C	644m	(7)ミズバショウ、ニッコウキスゲ群落。	
	一ノ瀬周辺					●							低→低	易	中	D → C	個	(4)ホソバツルリンドウ（環:VU・群:EN）の生育地。	
	東俣沢					●							低→低	やや易	中～高	D → C	個～小	(4)ハクセンナズナ（群:CR）の生育地。	
	奥鬼怒林道沿い周辺					●							低→低	易	中	D → C	個～小	(4)エゾムラサキ（群:EN）の生育地。	
鬼怒沼湿原 （栃木県域）	鬼怒沼湿原			●	●		●					●	→ → 高	高	易～高	→ → B	28m、40m、 81m、16m、 137m、100m	(7)キンコウカ群落、(4)ミズバショウ（栃:Ⅱ類）、ヒメスズムシソウ（国希・環:CR・栃:Ⅱ類）の生育地。(1)ヒメスズムシソウ（隔離）。（エリアの追加により評価）	
白根山 （栃木県域）	五色沼北斜面			●		●							→ → 低	高	中～高	→ → C	905m	(7)高山植生のお花畑。(4)シラネアオイ（栃:Ⅰ類）の生育地。（エリアの追加により評価）	
白根山 （群馬県域）	弥陀ヶ池・座禅山			●			●						→ → 中	高	中～高	→ → B	0.4ha	(7)高山植生のお花畑。(4)シラネアオイ（群:VU）、ホソバトリカブト（群:VU）などの生育地。（エリアの追加により評価）	

※1 個→個体規模：個体を対象とし周長20m以内（鳩待～山ノ鼻間のシラネアオイなど） 小→小規模：群落を対象とし周長20m以上100m以内（燧ヶ岳など） 大→大規模：景観を対象とし周長100m以上（下ノ大堀、大江湿原など）、既設の柵については2025（令和7）年3月現在の周長

※2 環→環境省レッドリスト2020 群→環境省レッドリスト2022 福→福島県レッドリスト2022 新→新潟県レッドリスト2014 CR: 絶滅危惧ⅠA類, EN: 絶滅危惧ⅠB類, VU: 絶滅危惧Ⅱ類, NT: 準絶滅危惧 栃→栃木県レッドリスト Ⅰ類: Aランク（環境省CR+EN相当） Ⅱ類: Bランク（環境省VU相当） 国希→国内希少野生動植物種

② 優先防護エリアの植生回復の目標及び調査項目

優先防護エリアごとに植生回復の目標及び調査項目を以下のとおり設定する。

巻末資料表 7-1 優先防護エリアの植生回復の目標及び調査項目

対象区域	2020ランク	2025ランク	優先防護エリア	植生保護柵の規模（延長）	植生保護柵の設置者	調査実施者	目 標	調査項目
尾瀬地域全域	A	A	大江湿原	2,000m	会津森林管理署南会津支署	関東地方環境事務所	・ニッコウキスゲ群落の開花状況の回復(30個体／㎡) ・絶滅危惧種等の回復 ・大江川河口部の植生の回復	・ニッコウキスゲの個体数、開花数、個体サイズ、群落の定点撮影 ・クロバナロウゲ、シナノキンバイ、ヤナギトラノオの個体数、開花数、個体サイズ ・大江川河口部の低層湿原の定点撮影
				1,550m	南会津尾瀬二ホンジカ対策協議会 （事務局：南会津地方振興局）			
				160m	関東地方環境事務所			
	A	A	尾瀬ヶ原（ヨッピー川南岸）	964m、3.5ha	片品村	片品村※	・ニッコウキスゲ群落の開花状況の回復(30個体／㎡) ・絶滅危惧種等の回復	・ニッコウキスゲの個体数、開花数、個体サイズ、群落の定点撮影 ・カキラン、ヤナギトラノオの個体数、開花数、個体サイズ
	A	A	尾瀬ヶ原（下ノ大堀）	890m、5.3ha	関東地方環境事務所	関東地方環境事務所	・ミズバショウなどの植生の回復 ・ニッコウキスゲ群落の開花状況の回復(30個体／㎡) ・低木群落の回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・ニッコウキスゲの個体数、開花数、個体サイズ、群落の定点撮影 ・低木群落の定点撮影
	D	A	三平峠付近		-	-	・キヌガサソウの回復	・キヌガサソウの個体数、開花数、個体サイズ
	-	A	至仏山登山道沿い		-	-	・シラネアオイの回復	・シラネアオイの個体数、開花数、個体サイズ

※なお、実績として平成27年度～令和 6 年度については、関東地方環境事務所において調査を実施している。

巻末資料表 7-2 優先防護エリアの植生回復の目標及び調査項目

対象区域	2020ランク	2025ランク	優先防護エリア	植生保護柵の規模（延長）	植生保護柵の設置者	調査実施者	目 標	調査項目
尾瀬地域全域	A	B	オヤマ沢田代	305m、0.44ha	群馬県	群馬県※	・雪田植生の保全	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影
	A	B	笠ヶ岳山頂付近	383m	関東地方環境事務所	関東地方環境事務所	・雪田植生の回復	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影
	B	B	尾瀬ヶ原（見晴）	1,676m	関東地方環境事務所	関東地方環境事務所	・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ミズバショウ、ミツガシワが生育する環境・景観の定点撮影 ・ヒメミズトンボ、オオニガナの個体数、開花数、個体サイズ
	B	B	尾瀬ヶ原（研究見本園）	1,684m、12.65ha	群馬県	群馬県	・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ミズバショウ、ミツガシワが生育する環境・景観の定点撮影 ・ヒメミズトンボ、オオニガナ、ヤナギトラノオ、クロバナロウゲの個体数、開花数、個体サイズ
	B	B	尾瀬ヶ原（竜宮）	1,179m、6.36ha	関東地方環境事務所	関東地方環境事務所	・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ミズバショウ、ミツガシワが生育する環境・景観の定点撮影 ・オオニガナ、ヤナギトラノオの個体数、開花数、個体サイズ
	B	B	燧ヶ岳山頂周辺	30m×2箇所	関東地方環境事務所 福島県	関東地方環境事務所	・ユキザサなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ユキザサの群落高と群落サイズ ・キヌガサソウの個体数、開花数、個体サイズ
	-	B	鳩待峠～山の鼻間 シラネアオイ群生地	14m、0.001ha	群馬県	群馬県	・シラネアオイの回復	・シラネアオイのサイズと花数、個体数
	D	B	横田代		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	D	B	アヤメ平		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	A	B	至仏山周辺		-	-	・雪田植生、高山植生の保全	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影
	A	B	小至仏東斜面（お花畑）		-	-	・雪田植生、高山植生の保全	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影
	A	B	小笠（お花畑）		-	-	・雪田植生、高山植生の回復	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影
	C	B	会津駒ヶ岳山頂周辺		-	-	・雪田植生、高山植生の保全	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影
	C	B	田代山山頂の湿原群落		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	C	B	帝釈山山麓のオサバグサ群落		-	-	・オサバグサ群落の回復	・オサバグサの個体数・植被率
	D	B	上田代、横田代、西田代		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	D	B	広沢田代		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	D	B	熊沢田代		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
奥日光地域	－	B	鬼怒沼湿原	小規模柵6基 28m、40m、81m、16m、137m、100m	日光地域シカ対策共同体	共同体で実施	・景観を含めた鬼怒沼湿原全体の保全	別途共同体で設定
	－	B	白根山（弥陀ヶ池・座禅山）	0.4ha	群馬県	群馬県	・シラネアオイの回復	・シラネアオイのサイズと花数、個体数

※なお、実績として令和２年度～令和６年度については、関東地方環境事務所において調査を実施している。

巻末資料表 7-3 優先防護エリアの植生回復の目標及び調査項目

対象区域	2020ランク	2025ランク	優先防護エリア	植生保護柵の規模（延長）	植生保護柵の設置者	調査実施者	目 標	調査項目
尾瀬地域全域	C	C	大清水湿原	644m、0.36a	片品村	片品村	・ミズバショウなどの植生の回復 ・ニッコウキスゲ群落の開花状況の回復(30個体／㎡)	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・ニッコウキスゲの個体数、開花数、個体サイズ、群落の定点撮影
	C	C	御池田代	1,093m	檜枝岐村	関東地方環境事務所	・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・クロバナロウゲ、オオバコウモリの個体数、開花個体数、個体サイズ
	D	C	沼山峠		-	-	・ジョウシュウオニアザミの回復	・ジョウシュウオニアザミの個体数、個体サイズ
	D	C	小淵沢田代		-	-	・キンコウカ群落の保全 ・絶滅危惧種等の回復	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影 ・ヤチランの個体数
	D	C	施設周辺		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・カラフトダイコンソウ、エゾムラサキの個体数
	D	C	三平下・早稲沢付近の湿原		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・オゼヌマアザミ、オオバコウモリの個体数、開花個体数、個体サイズ
	D	C	沼尻平		-	-	・キンコウカ群落の保全 ・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影 ・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・キリガミネアサヒラン、ハライヌノヒゲの個体数
	D	C	小沼湿原		-	-	・キンコウカ群落の保全 ・絶滅危惧種等の回復	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影 ・ナガバノモウセンゴケの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	曲り田代		-	-	・キンコウカ群落の保全 ・絶滅危惧種等の回復	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影 ・ナガバノモウセンゴケの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	白砂田代		-	-	・キンコウカ群落の保全 ・絶滅危惧種等の回復	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影 ・ナガバノモウセンゴケの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	大清水平		-	-	・キンコウカ群落の保全 ・絶滅危惧種等の回復	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影 ・ナガバノモウセンゴケの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	タソガレ田代		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	D	C	沼尻川掬水林		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・シバタカエデの樹皮剥ぎの有無、ベニバナヤマシャクヤク、オゼキンボウゲ、キバナノアマナの個体数、開花数、個体サイズ
	-	C	東電尾瀬橋付近		-	-	・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・クロバナロウゲ、ミズチドリ、ザゼンソウの個体数、開花数、個体サイズ
	C	C	景鶴山山麓扇状地		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・シバタカエデの樹皮剥ぎの有無、センジュガンビ、オゼキンボウゲの個体数、開花数、個体サイズ
	B	C	尾瀬ヶ原（泉水田代）		-	-	・クロバナロウゲを主とした低層湿原の保全	・クロバナロウゲを主とした低層湿原の景観の定点撮影
	-	C	尾瀬ヶ原（下田代）		-	-	・ニッコウキスゲ群落の開花状況の回復	・ニッコウキスゲなどの中間湿原の景観の定点撮影
	D	C	山ノ鼻周辺		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・コケイラン、オオバコウモリ、カラフトダイコンソウ、ヒメゴヨウイチゴの個体数、個体サイズ
	D	C	テンマ沢		-	-	・ミズバショウなどの植生の回復 ・オゼヌマアザミの回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・オゼヌマアザミの個体数
	D	C	富士見田代		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	D	C	竜宮小屋裏山		-	-	・トラキチランの回復	・トラキチランの個体数
	C	C	イヨドマリ沢		-	-	・ジョウシュウトリカブトの回復	・ジョウシュウトリカブトの個体数
	C	C	燧ヶ岳西山麓 大櫓沢のフキユキノシタ群落		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・ジョウシュウトリカブトの個体数、フキユキノシタの開花数、植被率
	D	C	ウサギ田代		-	-	・中間湿原、レンゲツツジ群落の保全	・中間湿原、レンゲツツジの群落の景観の定点撮影
	D	C	景鶴山谷中雪崩斜面		-	-	・トガクシソウ、シラネアオイの回復	・トガクシソウ、シラネアオイの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	柳平		-	-	・ミズバショウなどの植生の回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影
	D	C	鳩待～山ノ鼻間 カラフトミヤマシダ生育地		-	-	・カラフトミヤマシダの回復	・カラフトミヤマシダ個体数、個体サイズ
	D	C	川上川上流		-	-	・オオタカネバラの回復	・オオタカネバラの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	尾瀬ヶ原周辺		-	-	・シテンクモキリの回復	・シテンクモキリの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	長沢		-	-	・ヒメゴヨウイチゴの回復	・ヒメゴヨウイチゴの開花数、植被率
	C	C	スモウトリ田代周辺		-	-	・ミズバショウなどの植生の回復 ・絶滅危惧種等の回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影 ・クロバナロウゲ、オオバコウモリの個体数、開花個体数、個体サイズ
	-	C	広沢～熊沢田代間		-	-	・キヌガサソウの回復	・キヌガサソウの個体数、開花数、個体サイズ
	A	C	原見岩		-	-	・雪田植生、高山植生の保全 ・シラネアオイの回復	・雪田植生の攪乱による裸地の計測、定点撮影 ・シラネアオイのサイズと花数、個体数
	D	C	片藤沼周辺		-	-	・キンコウカ群落の保全	・キンコウカ群落の攪乱による裸地の計測・定点撮影
	C	C	大津岐峠周辺の稜線 雪崩斜面谷頭部及び雪田草原		-	-	・シラネアオイの回復	・シラネアオイのサイズと花数、個体数
	D	C	小田代～田代山区間		-	-	・ジョウシュウオニアザミの回復	・ジョウシュウオニアザミの個体数、個体サイズ
	C	C	猿倉登山口周辺		-	-	・絶滅危惧種等の回復	・センジュガンビ、オオバコウモリの個体数、開花個体数、個体サイズ
	D	C	一ノ瀬周辺		-	-	・ホソバツルリンドウの回復	・ホソバツルリンドウの植被率
	D	C	東俣沢		-	-	・ハクセンナズナの回復	・ハクセンナズナの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	奥鬼怒林道沿い周辺		-	-	・エゾムラサキの回復	・エゾムラサキの個体数、開花数、個体サイズ
	D	C	長池		-	-	・ミズバショウなどの植生の回復	・ミズバショウなどの低層湿原の景観の定点撮影
	D	C	片品川源流部		-	-	・エゾニワトコの回復	・エゾニワトコの個体サイズ
奥日光地域	-	C	白根山（五色沼北斜面）	905m	栃木県	栃木県	・シラネアオイの回復	・シラネアオイの根生葉数と花茎数 ・調査区内の優占種

4. 捕獲の実施方針（対策方針P 7）

巻末資料表 8 対象区域内において捕獲困難とされる高標高域で実施されている捕獲事業

実施場所	実施主体	方法	制度	捕獲の目的	捕獲の効果を期待する地域	2022 (R4) 年度捕獲数 実績	2023 (R5) 年度捕獲数 実績
奥日光 (杜山)	栃木県	銃器	指定 管理	越冬地における個 体数削減	奥日光・ 尾瀬	50	23
鬼怒沼	栃木県	くくり 罠	指定 管理	生態系被害地にお ける個体数削減	鬼怒沼	実施なし	9
日光白根 山地域	関東地方 環境事務 所	くくり 罠	指定 管理	保全エリアで植生 被害を出している 加害個体の捕獲	白根山	実施なし	19
田代山	福島県	くくり 罠	指定 管理	植生保護	田代山	0	7

図13 ライトセンサー様式 (環境省 関東地方環境事務所 国立公園課より提供)

※調査地点（調査者自身の位置）についてはGPSによって記録するか、自動車であれば起点を定めてそこからの走行距離を記録する。

(表)

記入上の注意

- ◆ 記入は、HB以上の濃さの鉛筆やシャープペンシル(0.5mm以上)、ボールペンで行ってください。
- ◆ 修正には、消しゴムを使用してください。

登録 番号		第						号	氏 名 (カタカナ)	カタカナで記入してください。
主な 対象	☐ シカ・イノシシ両方 ☐ シカのみ ☐ イノシシのみ ☐ シカ・イノシシは対象外 (該当するところに、×印を入れてください 例: ☒)									

※シカ・イノシシを対象とした出猟の都度、ご記入ください。

※目撃や捕獲がなかった場合も、出猟日とメッシュ番号、出猟場所、同行者数をご記入ください。

※捕獲数は、自分自身が捕獲した頭数だけをご記入ください。(同行者と重複しないように。)

※目撃数は、自分自身が目撃した頭数を全てご記入ください。(同行者と重複してもかまいません。)

※自分自身が捕獲し、捕獲数に加えたものは、目撃数には含めないでください。

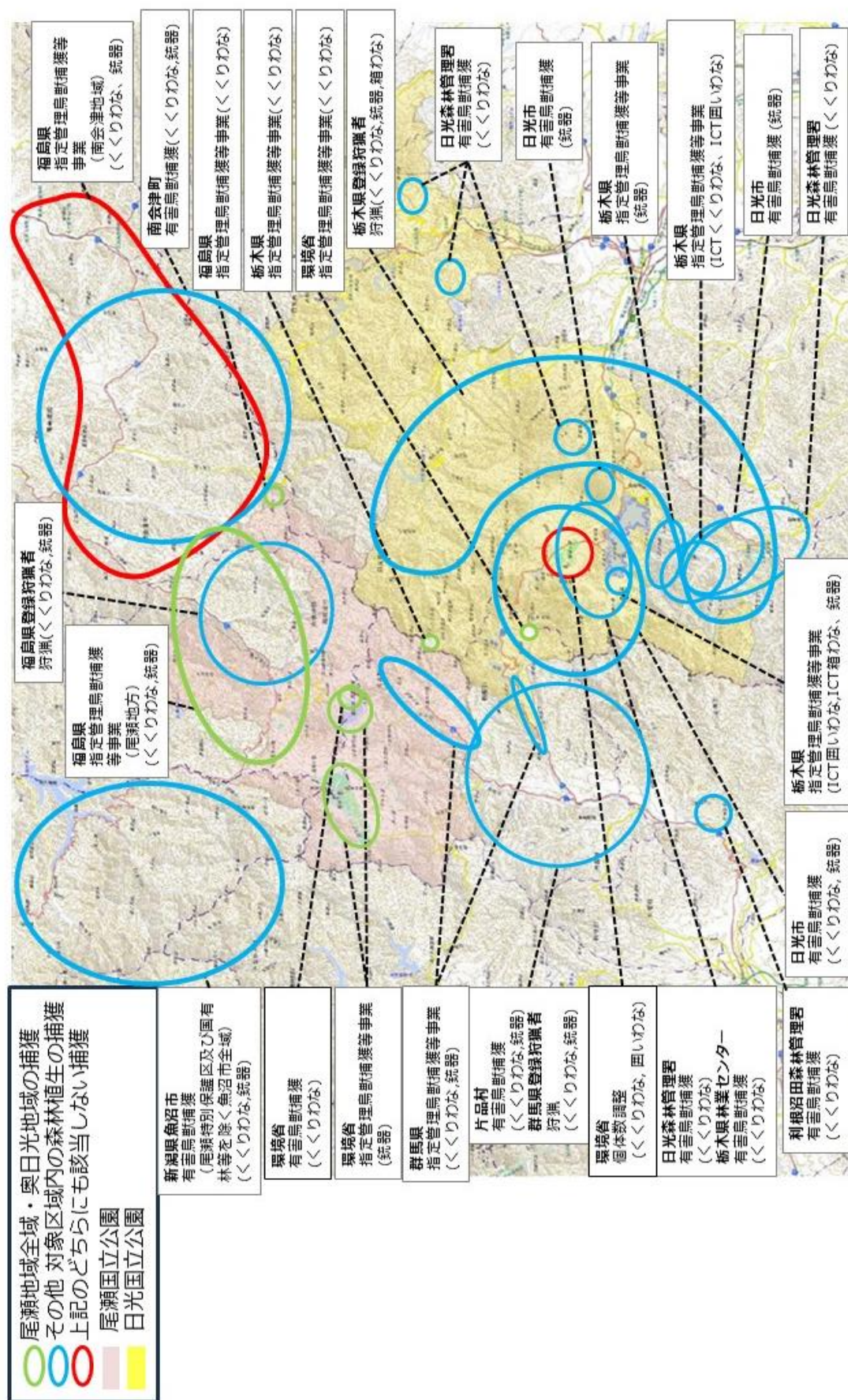
[illegible]

※メッシュ番号は、「鳥獣保護区等位置図」に記載していますので、よく確認の上ご記入ください。

※出猟の有無にかかわらず、登録証と一緒に、必ず提出してください。

※記入欄が足りない場合は、追加の用紙をお渡しします。

(裏面へ)



巻末資料図 15 2024 (令和6) 年度における各機関の捕獲実施位置図

※尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会において作成